

令和5年度大学地域連携活動支援事業 最終報告会

発表日：2024年02月05日(月)

小さな拠点

「里山キャンパス益子家」 プロジェクト

発表者：宇都宮大学農学部農業経済学科 西山研究室
鈴木美愉、岡本夢楽、小野結香、栗崎笑瑠、
田口大翔、勅使川原夢南、根本彩花、望月奈央
(指導教員：西山未真)

1,農村を取り巻く課題

益子町大平地区



- 耕作放棄地の増加
- 空き家の増加
- 食文化の衰退
- 地域外との関わりに不慣れ
- 山の荒廃、竹が里山を侵食
- 人と会わない



農村の問題は
都会の問題の裏返し

2, 益子家のコンセプト

1

持続可能な里山を
実現できる場所

2

やってみたいができる場所

3

多様性が集う場所

4

食と農が自分自身に
結び付けられる場所



3, 活動概要

活動概要

2022年度(1年目)

2023年度(2年目)

活動概要	2022年度(1年目)	2023年度(2年目)
1.農地調査と棚田の再生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地台帳分析とヒアリング、T型点検 ・ 水路、畦づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆうだい21の栽培(農薬・肥料不使用) ・ 収穫祭
2.古民家改修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 荷物だし、屋根の補修 ・ 玉石基礎、内壁の補修 ・ 下地づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下地づくり、フローリング ・ 縁側、雨樋、外壁の補修 ・ 屋根の補修
3.竹林・山林整備	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働体制づくり ・ 下草刈り
4.地域食堂開設のための食に関する情報収集	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ ローカルフードシステムの調査
5.農村地域の手仕事の掘り起こし	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藍、綿の栽培(農薬、肥料不使用) ・ 綿繰り機の自動化 ・ マルシェ出店 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藍、綿の栽培(農薬、肥料不使用) ・ マルシェ出店

4-1, 進捗状況

～改修～

2023年10月～現在

〈大掃除〉



〈屋根の補修〉



〈雨樋の取り替え〉



4-2,進捗状況

～マルシェへの出店～

2023年11月23日 森と里のつながるマルシェ

- ・お米、オリジナルTシャツの販売、綿繰りWS、活動展示



4-2,進捗状況 ～マルシェへの出店～



- お客さんとの
コミュニケーション
- ・米農家が米を買ってくれた
 - ・応援消費でTシャツ購入
 - ・子ども同士で
綿繰りの教え合い

4-2,進捗状況

～マルシェへの出店を通して～

益子家での初めての販売！！

パッケージデザインに
時間をかけられなかった。



産地、品種、産年を保証する
記録を残しておらず、
「ゆうだい21」「益子町
産」と表示できなかった。



- ・ 販促部門に時間をかける
- ・ イベント出店時の準備物のマニュアル化
- ・ 産地、品種、産年の根拠となる記録(種子購入記録、栽培記録)を残す

4-3, 進捗状況 ～収穫祭～

2023年11月26日

- ・ 長年耕作放棄地だった農地2.5aを再生し収穫したゆうだい21を使用
- ・ 益子町の地元料理「ビルマ汁」を調理



- ・ 多様な人との出会いを実感
- ・ 人の輪の広がり



4-3, 進捗状況 ～収穫祭～

- ・ 大平地区で使用されていた**お膳**を譲り受けた
- ・ 有機農家のドキュメンタリー映画の視聴



- ・ 拠点としての益子家の役割が見えた
- ・ 自治村の“寄り合い”の機能

5, 地域の方からの反応

【マルシェのお客様より】

学生が、完全に有機でかつ耕作放棄の田んぼを再生しようとする姿勢に驚いた。有機栽培にこだわった米とそうでない米で味がどのように違うのか気になった。学生が農業に真剣に取り組んでいて応援したくなった。

【収穫祭の参加者より】

益子家で作られたお米を炊き、参加者がみんなで食べたいものを持ち寄る、そういった光景は日本の農村の原風景のような気がして、懐かしくなった。みんなで食べると楽しくて食べ過ぎた!!一緒になにかできることがあれば、ぜひやりたい。

【大平地区の方より】

若い学生たちが熱心に通ってきてくれて、活動を広げていることに感心している。私たちも刺激をもらい、励まされる思いがしている。

6-1,ローカルフードシステムの調査

〈大平地区食文化調査〉

実施日：2023年12月20日(水) 対象：大平地区住民K氏、T氏

【地区内での結婚式、葬式】

- ・ 結婚式 ~1970年代後半まで
家→公民館→農協へと外部化
- ・ 葬式 ~1990年代後半まで

〈葬式の献立：お膳で配給〉

白和え、がんもどき、煮魚、汁物、うどん、饅頭

【社会福祉協議会の調理ボランティア】

- ・ 約60食のお弁当づくりを2か月に1度、8人で担当

【地蔵講】

- ・ 子供の成長を祈る女性の集まり
- ・ 年に1回公民館での食事会

〈地蔵講の献立〉

どんぶり混ぜごはん※、けんちん汁、漬物

※かんぴょう、にんじん、ごぼう、油揚げを炊いた白ご飯に混ぜたもの。

➡ **メニューを再現し、プレ地域食堂を実施**



地域食堂

- 日にち：1月27日(土)
- 時間：11:30-12:30
- 場所：益子家
- メニュー：
大平のまぜごはん・味噌汁



6-2,ローカルフードシステムの調査

〈益子町食と農の地域内連携〉

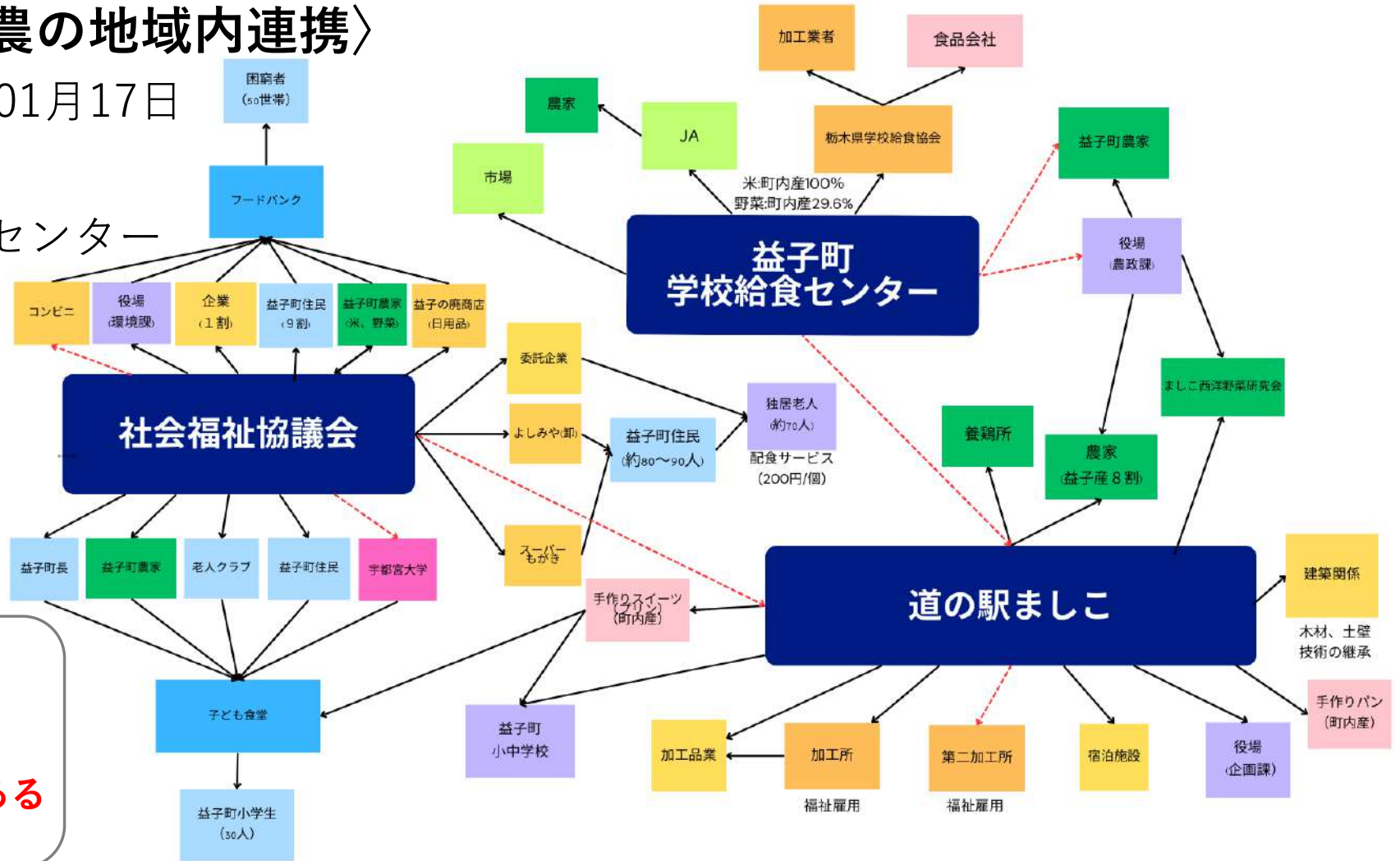
調査日：2024年01月17日

調査対象：

益子町学校給食センター

社会福祉協議会

道の駅ましこ






既に連携がある

連携の可能性はある

7, 今後の予定

2023年度～来年度以降

	2月	3月	来年度
耕作放棄地の再生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 棚田オーナー制プログラム作成、周知 ・ 田んぼ水路整備、畑の整備、温床づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 棚田オーナー制モニター開始 ・ 野菜の栽培
古民家の改修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外壁の改修 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 内装整備
竹林・山林整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森構想、森を知るWS、山林整備 ・ 竹の伐採WS、竹の活用方法の考案 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 水の整備 
地域食堂	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働体制づくり、食文化調査 ・ プレ地域食堂の実施 		
持続的な運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織の運営方法や収益性に関する計画づくり 		



来年度に向けてまだまだ頑張ります！！
ご清聴ありがとうございました。

